



子どもの 育ちと学びをつなぐ

架け橋期^{*1}のカリキュラム作成と活用を通して

*1：架け橋期とは5歳児から小学校1年生までの2年間のこと



幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。

遊びを通して小学校以降の学習の基盤（学びの芽生え）を培う時期であり、小学校においてはその芽生えをさらに伸ばしていくことが必要です。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要です。

本リーフレットは、園と小学校の先生が「架け橋期のカリキュラム」の作成と活用を通して、**子どもの育ちと学びをつなぐことができるようにすること**を目的に作成しました。

各地域や施設の創意工夫をいかして活用してください。



令和8年3月

福島県教育委員会



架け橋期のカリキュラム



架け橋期のカリキュラムとは何ですか？

園と小学校の先生が、共通の視点で話し合いながら、協働して作成するカリキュラムです。架け橋期に育みたい子どもの姿を基に、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を具体的にしましたものです。



どうして架け橋期のカリキュラムを作成するのですか？

架け橋期の子どもへの育ちや学びの連続性、指導方法の一貫性を確保し、**子どもたちの学びや生活の基盤となる力を育むため**です。架け橋期のカリキュラム作成は、その力を育むために行われている**幼保小の架け橋プログラム*2**の一環です。以下では、カリキュラムの特長やメリットについて解説します。*2：詳しくは「幼保小の架け橋プログラム」へ



特長

子どもに関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働するためのツール

たての連携・協働



小学校

園と小学校の先生が教育内容と指導方法について相互理解し、自らの指導を見直し工夫することで、子どもの育ちと学びが円滑につながります。



園

よこの連携・協働



園

園の先生同士が、環境構成や子どもへの関わり方に関する工夫を共有することで、全ての子どもに質の高い学びを保障できます。



園

まわりとの連携・協働



小学校



家庭

園や小学校が保護者や地域と架け橋期のカリキュラムを共有することで、教育活動への理解と協力を得ることができます。



地域



園

メリット

子どもにとって安心感の醸成、先生にとって保育・授業の質の向上

子ども



小学校生活をスムーズにスタート！

幼児期に培った力を発揮しながら、主体的に小学校での学びや生活へ取り組むことができます。

安心して遊ぶ！学ぶ！

安心できる環境や関わりの中で育ちに応じた経験が保障され、学びや生活の基盤となる力を身に付けることができます。

子どもの育ちに即した指導の一層の充実！

園と小学校の先生が相互の教育内容や指導方法を理解し、取り入れていくことで、保育・授業の質が向上します。

架け橋期の子どもへの育ちと学びを全ての先生が共有！

架け橋期の担任だけでなく全ての先生が架け橋期の教育について理解することができます。このことにより、架け橋期前後の子どもへの育ちと学びの連続性も確保され、園と小学校の教育が一層充実します。

先生



スタートカリキュラムとの違いは何ですか？

月	日	内容
1	1	スタートカリキュラム
1	2	スタートカリキュラム
1	3	スタートカリキュラム
1	4	スタートカリキュラム
1	5	スタートカリキュラム
1	6	スタートカリキュラム

月	日	内容
1	1	架け橋期のカリキュラム
1	2	架け橋期のカリキュラム
1	3	架け橋期のカリキュラム
1	4	架け橋期のカリキュラム
1	5	架け橋期のカリキュラム
1	6	架け橋期のカリキュラム

スタートカリキュラムは、入学した日からの学校生活について具体化したものです。期間は入学後からの1ヶ月、1学期終わりまでなど学校によって様々です。入学当初の生活科を中心とした合科的・関連的な指導等について示します。

それに対し、架け橋期のカリキュラムは、5歳児から小学校1年生までの期間を見通して編成します。学区など地域単位で作成するのも特徴の一つです。どちらも子どもたちが安心して遊び、学ぶことにつながる大切なものです。



幼保小の架け橋プログラム

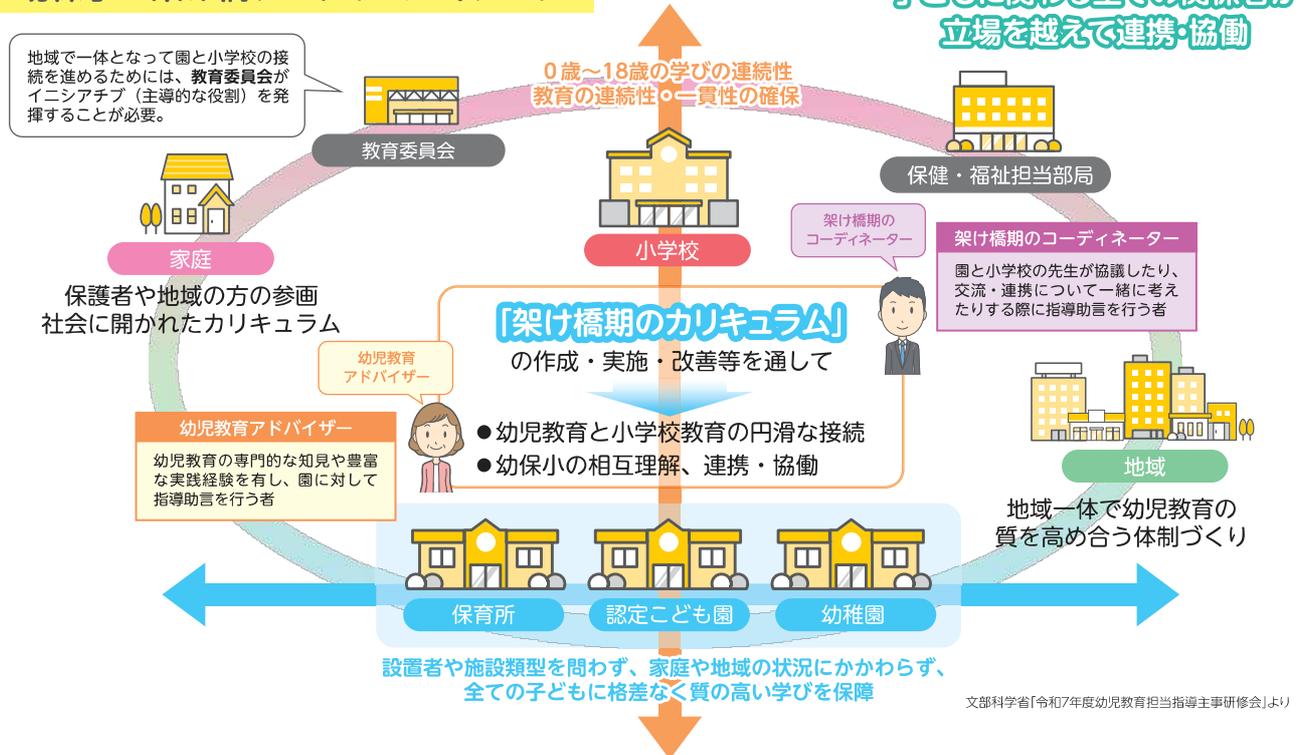


幼保小の架け橋プログラムとは何ですか？

子どもに関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤となる力を育むことを目指す取組のことです。



幼保小の架け橋プログラムのイメージ



園と小学校の先生が子どもの学びについて協議する時に手掛かりとなるのが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)です。



① 健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

② 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

③ 協同性

友だちと関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

④ 道徳性・規範意識の芽生え

友だちと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友だちの気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友だちと折り合いを付けながら、きまりをつくり、守ったりするようになる。

⑤ 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

⑥ 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友だちの様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

⑦ 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

⑨ 言葉による伝え合い

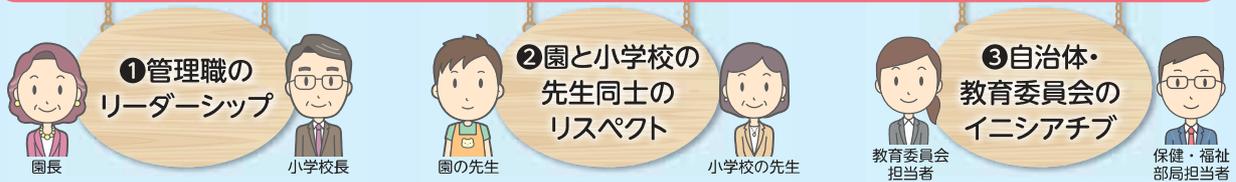
先生や友だちと心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

⑩ 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

架け橋期のカリキュラム作成・活用の土台となる 3つのポイント

架け橋期のカリキュラムを作成し、継続的に活用していくためには、園と小学校の先生同士がリスペクトしながら相互理解を図ることや管理職のリーダーシップの下、5歳児と小学校1年生の担任の先生だけでなく園と小学校全体の取組とすること、自治体・教育委員会が研修会を実施するなどイニシアチブを発揮することが欠かせません。



架け橋期のカリキュラムの進め方の例

上記の3つのポイントを押さえた上で、園と小学校の先生が相互理解を図りながら作成していくために、研修と交流も併せて実施します。以下のような段階（フェーズ）で架け橋期のカリキュラムを作成し、活用していきます。各地域の実態に応じて取組を進めましょう。



はじめよう

フェーズ1 ～基盤づくり～

園と小学校

準備

- 園と小学校で架け橋期のカリキュラム作成担当者を決める。
- 園と小学校の管理職同士が連絡を取り合う。

研修

- 幼小連携や架け橋プログラムに関する研修会に参加する。
- 研修会などで得た学びを全職員に伝達し、共通理解を図る。
- 園と小学校の先生が互いに保育や授業を参観し、子どもの実態や保育・授業の様子を知る。

交流

- 園と小学校でスムーズに連絡を取っていくために、園と小学校で交流活動担当者を決める。※上記の架け橋期のカリキュラム作成担当者と同じでもよい。
- 子ども同士の交流時期などについて交流担当者同士で話し合う。
- 年1回、交流活動を園または小学校で実施する。

自治体・教育委員会

- 自治体内の関係部局同士が連携し、自治体としての方針を決める。
- 実態に応じて架け橋期のカリキュラムを検討する会議体（以下、推進会議とする。）を立ち上げる。



公立の園と小学校関係者や行政担当者、有識者などで構成します。年度途中のメンバーの追加も可能です。

- 推進会議で架け橋期のカリキュラムの素案を作成する。
- 共に架け橋期のカリキュラムを作成する園と小学校のマッチングを行う。（例：小学校区、中学校区）
- 園と小学校の合同研修会を実施する。



学力向上研修会など、既存の研修会を活用することも考えられます。

つくってみよう

フェーズ2 ～検討・作成～

園と小学校

作成

- 架け橋期のカリキュラムを作成する園と小学校で幼小連携に関する合同会議（以下、合同会議とする。）を設置し、実施する。（地域によっては、フェーズ1の推進会議ではなく、合同会議で作成していく場合もある。）
- 架け橋期のカリキュラム（推進会議などが作成した素案など）の共通の視点の内容を検討し、実態に応じたものにしていく。
- 架け橋期のカリキュラム作成担当者が保育や授業を参観したり、動画・写真などで活動の様子を共有したりすることを通して、子どもの姿や事例から、共通の視点に基づき内容を話し合う。
- 合同会議の内容について全職員に伝達し、共通理解を図る。

研修

- 保育や授業を参観した後に子どもの学びについて話し合い、相互の教育内容や指導方法の理解を深める。

交流

- 園と小学校にとって互いにメリットのある交流になるように、交流活動について内容を伝え合う。
- 園と小学校がねらいをもって交流活動を行う。
- 次年度に向けて、園と小学校の交流活動を年間計画に位置付ける。

自治体・教育委員会

- 架け橋期のカリキュラム作成のために必要な研修会を企画し実施する。



研修会の企画・運営や各地区の合同会議に架け橋期コーディネーターを活用することも有効です。

- 保育や授業の動画や写真などを撮影し、蓄積していくことで、研修の充実につなげる。
- 自治体内の関係部局が連携しながら園と小学校との連携をコーディネートする。



交流活動は、生活科や学級活動(1)の他に、「〇〇遊び」の内容がある音楽科、体育科、図画工作科も取り組みやすいです。

また、5年生との交流も効果的です。5年生は、5歳児が入学した時の6年生になります。交流活動を通して子ども同士が互いを知ることは、小学校生活のスムーズなスタートにつながります。

やってみよう

フェーズ3 ～実施・検証～

園と小学校

活用

- 園と小学校で架け橋期のカリキュラムを実施する。
- 合同会議で、架け橋期のカリキュラムに基づく実践を検証する。
- 振り返りをいかして、次年度の園と小学校の教育課程などに架け橋期のカリキュラムを位置付ける。

研修

- 各地区の架け橋期のカリキュラムの状況を共有する。
- 自分の地域の架け橋期のカリキュラムの改善・修正を検討する。

交流

- 交流活動の充実を図るために、ねらいや内容と合わせて「環境構成や先生の関わりはどうか」について架け橋期のカリキュラムを見ながら話し合う。



事前の話合いはオンラインを活用するなどして相互の負担にならない方法も検討しましょう。

- 交流活動の際は、子どもの自主的な姿を尊重する。
- 子どもの様子を基に、ねらい、内容、環境構成や援助について振り返り、次回交流にいかしていく。

自治体・教育委員会

- 推進会議において、架け橋期のカリキュラムの実施状況について把握する。
- 私立の園・小学校や特別支援学校などとも円滑に連携できるように配慮する。
- 関係機関などと連携し、園と小学校のニーズに応じて必要な支援や研修を継続して行う。



関係機関とは、ふくしま幼児教育研修センター、各教育事務所、教育センター、特別支援教育センターなどです。



つづけよう

フェーズ4 ～持続・発展サイクルの定着～

園と小学校

発展

- 合同会議を年間計画に位置付け、架け橋期のカリキュラムに沿った実践を定期的に振り返り、必要に応じて改善・修正していく。
- 研修会や交流の実施状況を整理し、園と小学校における情報共有や引き継ぎに関する取組の定着を図る。
- 架け橋期のカリキュラムに基づく実践や相互理解したことを日頃の保育や授業に取り入れる。

研修

- 幼小連携に関する研修会に、5歳児や小学校1年生の担任以外の先生も参加し、園と小学校全体で架け橋期のカリキュラムへの理解を深める。
- 園内研修や校内研修に架け橋期のカリキュラムについての内容（環境構成や先生の関わりなど）を取り入れる。

交流

- 交流活動の事後の話合いから次回交流を実施するなど活動がつながるようにする。
- 子どもの思いや願いをもとに交流活動を実施する。

自治体・教育委員会

- 幼小連携の取組を持続可能なものとするために、架け橋期のコーディネーターなどの人材を育成し、活用していく。
- 管理職会議などで好事例を共有したり、公開保育や公開授業を企画したりするなど、架け橋期のカリキュラムのさらなる改善や発展につながるようにする。
- 架け橋期のカリキュラムを実施することで得られた成果や課題などを推進会議で検証する。



成果や課題は、学力向上研修会や生徒指導協議会、学校保健委員会など他の研修会でも話題にすると取組が広がります。



架け橋期のカリキュラム作成に取り組んだ先生の声



園の先生

地域の園同士、園と小学校の先生が気軽に話し合える関係をつくっていくことが連携や交流を続けていく上で大切な土台だと思いました。



小学校の先生

園での指導方法を知り、授業や子どもへの関わり方が変わってきました。園の環境構成を参考にし、遊びを取り入れた授業では、子どもたちが生き生きと学ぶ姿が見られました。



園の先生

交流活動の事前や事後に小学校の先生と話し合うことで、子どもたちの実態や必要な手立てが明確になってきました。



小学校長

架け橋期の教育の充実には、園と小学校だけでなく、地域や保護者との連携も必要だと感じました。

県内自治体の取組例



架け橋期の教育の充実に関する取組は、園の種類、小学校と園との距離など市町村によって様々です。ここでは、県内3つの市の取組について紹介します。

喜多方市

園同士の連携をいかす

- 公私立園が交流し、相互の保育の充実を図りました。その取組をいかし、小学校との交流活動にも複数の園と一緒に訪問しました。



他園との交流を実施することで、環境構成などを自園の保育にいかすことができました。

園と小学校がそれぞれのねらいを明確にし、十分な準備や振り返りを行うことができました。



架け橋期のカリキュラムを活用する

- 園と小学校の合同研修会の際に架け橋期のカリキュラムを使って、相互の教育内容や指導方法について理解を図りました。その上で小学校のスタートカリキュラムを見直すための協議を実施しました。



架け橋期のカリキュラムを基に入学前の子どもの育ちと学びを理解することで、子どもの実態に合ったスタートカリキュラムに改善することができました。

田村市

相互に学びがある交流活動

- 園と小学校の交流活動を実施する際は、園と小学校の関係者で事前話し合いを実施し、ねらいを確認しました。



環境構成や先生の関わりなど、園の先生と一緒に授業を考えました。当日は、小学校1年生も園児と一緒に主体的に学習に取り組み、ねらいを達成することができました。

地域の方・保護者も一緒に

- コミュニティ・スクールの機能を活用して、架け橋期のカリキュラムを地域の方や保護者とも共有しました。



幼児教育の内容や幼小連携の取組について具体的に知ることができました。

幼児期は遊びが大切だということがよくわかりました。家庭でも子どもの「やってみたい」の気持ちを大切にしながら一緒に遊びたいと思います。



南相馬市

年間を通して見直す

- 園と小学校の合同研修会の際、その時期の架け橋期のカリキュラムの記入内容について話し合い、必要に応じて修正を行いました。話し合いは中学校区ごとに行いました。



推進会議で作成した架け橋期のカリキュラムを中学校区で話し合いながら改善してきた結果、地域の実態に応じた架け橋期のカリキュラムになりました。

架け橋期の前後の育ちも考える

- 0歳児から架け橋期までの育ちと学びについて、同年齢クラスの担任が集まって話し合いを行いました。



0歳児からの発達の連続性について考えることができました。架け橋期までの育ちと学びを見通しながら保育に取り組んでいます。

小学校でも、架け橋期の育ちと学びを2年生以降につなげていけるようにしたいです。



架け橋期のことがよくわかる資料

文科科学省

幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)



幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ



幼児教育と小学校教育がつながるってどうのこと



福島県

福島県幼児教育振興指針



架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区実践研究成果報告書



ふくしま幼児教育研修センターでも架け橋期の教育に関する情報を随時発信しています。



お問い合わせ

福島県教育庁義務教育課「ふくしま幼児教育研修センター」

住所：〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地（福島県教育センター1階）
TEL：024-554-1808 E-mail：youji-gr@fcs.ed.jp



カリキュラムは作成して終わりではないので、相互理解や指導の改善・充実につなげるために「必要な視点」は何かを考え随時見直していくことも必要です。

架け橋期のカリキュラム例

共通の視点 (項目例)

カリキュラムを作成(実践)する視点です。ここで示している①～⑦は一例ですので、推進会議などにおいて設定します。

① 目指す子どもの姿

市町村で掲げている子ども像、幼児期の終わりまでに育てほしい姿、園や小学校の教育目標や子どもの実態等から設定したり、推進会議において協議して設定したりします。

② 遊びや学びのプロセス

園や小学校の学びの特質などについて記載します。

③ 園で展開される活動／小学校の単元構成

①の育成に向けて、園と小学校が取り組むことを記載します。具体的な活動については、園ではこれまで実施してきた活動を、小学校では生活科などの単元をいかして記載します。

④-A 先生の関わり

一人一人の多様性や学びの連続性に配慮しつつ、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びが実現できるように、先生の関わりについて考えていきます。

子どもの主体性を大切にする関わりは園、小学校、家庭や地域すべて共通です。

共通の視点 (項目例)	0歳～	5歳児		小学校1年生		2年生～		
		I期	……	IV期	1学期	……	3学期	
① 目指す子どもの姿	言葉で思いを伝え合う子ども (次第に、多くの人に、具体的に、論理的に伝えられるようになっていく)							
② 遊びや学びのプロセス		【遊びは幼児にとって主体的な学び】 遊びを通して、多様な仕方環境に関わり、思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、また友達と共有して、環境に様々な意味や関わり方を発見する。			【小学校における自覚的な学び】 学ぶことへの意識があり、各教科などの学習内容について授業を通して学んでいく。また、個別の学習活動だけでなく、協働的な学習活動ができるようになる。			
③ 園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科などの単元構成		自分の思いを言葉で表現する活動 (例)「園庭でこんなもの見つけたよ」 ○遊びの中で園庭で見つけたものを伝え合う。(オタマジャクシ、チョウ、ダンゴムシなど)	……	みんなの前で発表する活動 (例)「一年間を振り返って発表しよう」 ○心に残ったことを発表する。	自分の思いを言葉などで表現する活動 (例)「がっこうだいすき」 ○学校探検で見つけたひと・もの・ことの中から一番伝えたいことを決めて自分なりの方法で発表する。	……	みんなで意見を話し合う活動 (例)「もうすぐ2ねんせい」 ○5歳児に楽しんでもらえるような交流活動になるように話し合う。	
④ 指導上の配慮事項	A 先生の関わり	○子どもがもっと話したくなるように、先生が子どもの思いに共感しつつ、その時の子どもの思いなどについて尋ねる。	……	○成長した自分を実感できるように言葉がけをする。 ○聞いている子どもに質問を促す。	○友だちの発表のよさを認め合い、疑問に思ったことを質問できるようにする。 ○子どもが発表した絵や言葉、写真などを学校の絵地図に付け足す。	……	○5歳児のことを考えながら話し合えるように言葉がけをする。 ○子どもが自分たちで話し合いを進められるように見守る。	
	B 子どもの学びや生活を豊かにする園や小学校の環境構成	○見つけたものの名前や飼育の方法を調べることができるように、図鑑や絵本などを用意する。	……	○楽しかった思い出が想起されるように、これまで描いた絵や作ったものなどを用意する。(こいのぼり、遠足や運動会の絵など) ○発表の雰囲気づくりとして、友だちの話が聞きやすいように椅子をU字形に配置する。	○学校探検で行った場所を思い出せるようにそれぞれの場所の写真を学校地図に貼っておく。 ○話し合いがしやすいように、少人数のグループにする。	……	○1年前の自分たちを振り返ることができるように、交流活動の写真や動画を準備する。	
⑤ 子どもの交流		〈7月〉水遊びを園で行う。 〈10月〉秋のおもちゃまつりに小学校へ行く。 ※打合せを夏休み中に実施する。	……	〈2月〉3園合同で小学校を訪問する。 ※打合せを冬休み中に実施する。	……	〈7月〉水遊びを園で行う。 〈10月〉秋のおもちゃまつりに3園の5歳児を招待する。 ※打合せを夏休み中に実施する。	……	〈2月〉小学校に3園の5歳児を招待する。 ※打合せを冬休み中に実施する。
⑥ 先生との交流		〈5月〉小学校の授業を参観する。 ※情報交換会を事後に実施する。	……	〈3月〉次年度の1年担任等と引継ぎを実施する。	……	〈6月〉園の保育を参観する。 ※交流活動の計画を話し合う。	……	〈2月〉園の保育を参観する。 ※情報交換会を事後に実施する。
⑦ 家庭や地域との連携			……	〈3月〉生活発表会を公開する。	……	〈7月〉授業参観を地域に公開する。	……	

園と小学校で行う活動を全て記入する必要はありません。目指す子どもの姿に焦点を当て、園や小学校で共通して行う活動や体験を精選し、記載します。

④-B 園や小学校の環境構成

園でも小学校でも子どもが自分の力で学びや生活をつかっていくことができるように環境構成を工夫します。ひと・もののほか、時間や空間の視点でも考えていきます。

⑤ 子どもの交流

交流する対象の年齢・学年、交流時期、交流のねらいなどを共通理解できるようにします。

⑥ 先生との交流

保育参観や授業参観の時期や交流活動に関する話し合いについて記載します。

⑦ 家庭や地域との連携

架け橋期の教育について家庭や地域と共有することが大切です。いつ、どのように連携していくか記載します。

文部科学省「令和5年度 都道府県協議会協議主題説明資料」を参考に作成

◇架け橋期のカリキュラムの例として、県内の市町村が作成した架け橋期のカリキュラムを紹介しています。

